

2020年8月1日開院

“Yuuai Medical Center”

友愛医療センター 心臓血管外科だより

Vol.24
2022年
10月

～2024年始動の「医師の働き方改革」に 対する取り組みについて～

2024年4月より国の方策として「医師の働き方改革」が具体案をもって始動します。医師の残業時間を減らすことがその主眼となり、年960時間越の時間外・休日労働が可能となるのは、都道府県知事の指定を受けた医療機関で指定に係わる業務に従事する医師（連携B・B・C水準の適用医師）のみ、となります。

心臓血管外科領域では緊急対応等を要しますので、B水準（年1860時間の時間外労働・休日労働）の施設基準がないと診療科の運営は難しいものと考えております。当院でもこの2024年4月に向けた改革を進めております。

ただこのB水準が現実的にどういったものかを詳述させていただきます。実際の勤務時間は、週6日であり、「9時間の勤務間インターバル、連続勤務制限28時間」が必須となりますので当院のように朝8:30からの勤務開始となりますと最高23:30までには帰宅を要します。もし通常勤務で夕方からの緊急手術等で日をまたぐ際でも原則は翌日の昼には帰宅し半日から1日の休みをとらねばなりません。

心臓血管外科の医師が働いている拘束時間は上記内容を超える内容となる時がままあります。1執刀医で維持されている施設であれば、連日の定期手術を時間内で終わらせることが必須となり緊急手術を受けることが難しくなります。緊急手術対応を迅速に行うには最低でも2チームが必要となり、それぞれが独立して動く体制が最低限必要かと考えます。

この現状をふまえて全国の心臓血管外科施設が様々な対策をたてているのが現状です。当院の対策現状としては下述のとおりとなります。

1. 現時点で心臓大血管手術対応可能なチームが2チームある

心臓血管外科医師の常勤が4名、非常勤が1名体制であります。5名中、心臓血管外科専門医が4名おりひとつの手術を常に2名の医師で行っているため2チームが可能です。今後は3チーム目も視野に人員拡大の方向で検討しております。

2. 人工心肺装置が2台あるので同時手術が可能

安全に多くの手術に対応するためには定期手術を行っている最中でも緊急手術の受け入れができる体制が必要です。当院では昨年人工心肺装置の2台目を導入しております。これによって心臓大血管手術の並行手術が可能となっております。

3. 手術にかかる時間を最大限に有効活用するため、手術以外の業務を他職種に業務移行する

術後管理が心臓血管外科医師の業務において時間を非常に要する職務の一つであります。ただし当院では2年前より術後管理の軽減に向けて調整を進め、いわゆる業務移行（タスクシフト）を安全に行っております。現在、当科における回診は、心臓血管外科医師、診療看護師（NP）1名、専属メディカルアシスタント2名、専属薬剤師3名、ソーシャルワーカー同行で日々行っております。また、術後管理は、ICU専従医に移行しており一般病棟転床時には院内紹介の患者さんは当院循環器内科医師へ主治医移行し退院後の管理までをお願いしております。今年8月より当科専属の診療看護師（NP）が配属されタスクシフトが大幅に進みました。まだ沖縄ではなじみの少ないNPですが、特定行為研修を終え大学院を2年終えた看護師であり、医師と同等の目線で診療に参加することが可能な存在です。かつ、看護師目線の細やかな患者ケアが可能となりますので手術に集中している我々としては患者さんの気持ちにより細かくお応えすることが可能となりました。

私どもも一日3例の心臓手術を24時間かけて行ってきた過去もありますが我々自身の健康を考えるとこれは現実的ではありません。我々も常に元気にクリアな状態で患者さんへの手術に臨むことができる良い機会と捉えて病院一丸となり改革中であります。

ただ、2024年4月の時点で当院心臓血管外科は今より多くの定期手術・緊急手術に対応できる体制を提供できると確信しております。先進医療を提供しつつ、長期予後を意識した手術治療を提供することが我々の存在意味と考えております。

まだまだ至らぬ点もありますが皆様からのご意見、ご指導に心と耳を傾け今後とも精進を重ねる所存です。今後とも、友愛医療センター心臓血管外科をどうぞよろしくお願いいたします。



友愛医療センター 心臓血管外科
山内 昭彦



執筆：
心臓血管外科 部長 山内 昭彦



山内昭彦ブログ「日本最南端の心臓外科医日記」より
「MICS-CABG による回旋枝領域へのバイパス」



ホームページ



心臓血管外科の
Facebookが
新しくなりました！

